

# 平成28年7月 全国百貨店売上高概況

平成28年8月19日

## I. 概況

1. 売上高総額	5,598億円余
2. 前年同月比	-0.1% (店舗数調整後/5か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	81社 236店 (平成28年6月対比±0店)
4. 総店舗面積	5,966,882㎡ (前年同月比:-1.4%)
5. 総従業員数	75,939人 (前年同月比:-2.3%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	12-2月 -0.5%、1-3月 -1.6%、2-4月 -2.2%、 3-5月 -3.9%、4-6月 -4.1%、5-7月 -2.8%

[参考] 平成27年7月の売上高増減率は3.4% (店舗数調整後)

### 【特徴】

7月の売上高は0.1%減で5か月連続のマイナスに終わったものの、前月に比べ大幅な改善(-3.5%/前月店舗数調整後)を見せた。

その要因として、堅調だった中元商戦や出足好調だったクリアランスにより、入店客数が昨年12月以来7か月ぶりに前年を上回ったことが挙げられる。

また、国内購買客売上(シェア97.4%)が、入店客数増などにより0.6%増と、昨年10月以来9か月ぶりに前年を確保した。インバウンド(シェア2.6%)は、購買単価の下落により売上高(-21.0%)こそ前年割れしたが、購買客数(+13.7%)は継続して拡大の傾向にある。

商品別では、クリアランスの前倒しを行った衣料品が前年に届かず厳しい結果に終わったが、身のまわり品(+1.2%)が5か月ぶり、雑貨(+2.4%)が2か月ぶりにプラスに転じた。

地区別では10都市計と10都市以外計が共に0.1%減。札幌、東京、神戸、福岡、北海道、近畿、中国のほか、震災復興の需要が高まる九州が前年を上回った。

今後については、シーズンエンドとシーズンインの切り替えを、実気温との差がある中で確実に検証し、年間のピークとなる第4四半期(10月-12月)につなげることが出来るかがポイントとなってくる。

### 【要因】

(1) 天候：気象庁発表「7月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇月前半は梅雨前線の活動が西日本付近で活発だったため、九州南部の月降水量はかなり多くなった。一方、東日本付近では梅雨前線は全般的に不活発だったため、東日本太平洋側と東北地方の月降水量は少なかった。気温は東日本以西では月平均気温が高く、北日本では寒気の影響を受ける時期があり月平均気温は平年並みだった。

(2) 営業日数増減 31.0日(前年同月比 ±0日)

(3) 土・日・祝日の合計 11日( " +2日/土・日曜各1日増)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数138店舗)

①増加した：50店、②変化なし：37店、③減少した：51店

(5) 7月歳時記(クリアランス、夏休み)の売上(同上/有効回答数105店舗)

①増加した：19店、②変化なし：63店、③減少した：23店

# 全国百貨店 売上高速報 2016年07月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ( )が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比 (%)	対前年増減(-)率 (%) ※
<b>全 国</b>	<b>559,880,640</b>	<b>100.0</b>	<b>-0.1 ( -0.2)</b>
<b>10都市</b>	<b>382,283,271</b>	<b>68.3</b>	<b>-0.1</b>
札幌	13,577,055	2.4	1.5
仙台	8,060,101	1.4	-1.1
東京	148,254,803	26.5	0.6
横浜	32,557,865	5.8	-0.2
名古屋	36,580,391	6.5	-1.5
京都	22,524,884	4.0	-0.9
大阪	73,105,614	13.1	-1.7
神戸	14,776,312	2.6	0.2
広島	12,960,382	2.3	-0.3
福岡	19,885,864	3.6	4.1
<b>10都市以外の地区</b>	<b>177,597,369</b>	<b>31.7</b>	<b>-0.1 ( -0.6)</b>
北海道	2,780,938	0.5	9.6
東北	7,987,662	1.4	-0.6 ( -1.3)
関東	78,565,128	14.0	-1.7 ( -2.8)
中部	13,348,589	2.4	-2.4
近畿	23,852,886	4.3	1.2
中国	12,445,582	2.2	0.7
四国	9,579,192	1.7	-0.6
九州	29,037,392	5.2	3.9

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比 (%)	対前年増減(-)率 (%) ※
<b>総 額</b>	<b>559,880,640</b>	<b>100.0</b>	<b>-0.1 ( -0.2)</b>
紳士服・洋品	34,681,505	6.2	2.1 ( 2.0)
婦人服・洋品	114,078,016	20.4	-2.6 ( -2.8)
子供服・洋品	11,353,132	2.0	-4.5 ( -4.7)
その他衣料品	13,434,734	2.4	-4.2 ( -4.7)
<b>衣 料 品</b>	<b>173,547,387</b>	<b>31.0</b>	<b>-2.0 ( -2.2)</b>
<b>身のまわり品</b>	<b>73,589,624</b>	<b>13.1</b>	<b>1.2 ( 1.1)</b>
化粧品	36,361,073	6.5	11.2 ( 11.1)
美術・宝飾・貴金属	30,455,258	5.4	-6.0 ( -6.0)
その他雑貨	19,697,414	3.5	1.4 ( 1.0)
<b>雑 貨</b>	<b>86,513,745</b>	<b>15.5</b>	<b>2.4 ( 2.2)</b>
家 具	5,923,056	1.1	-4.6 ( -4.7)
家 電	1,327,154	0.2	0.9 ( 0.9)
その他家庭用品	16,424,416	2.9	-4.0 ( -4.1)
<b>家 庭 用 品</b>	<b>23,674,626</b>	<b>4.2</b>	<b>-3.9 ( -4.0)</b>
生 鮮 食 品	33,171,945	5.9	-2.0 ( -2.2)
菓 子	42,221,109	7.5	2.3 ( 2.1)
惣 菜	32,701,761	5.8	0.8 ( 0.7)
その他食料品	62,357,162	11.1	-0.9 ( -1.0)
<b>食 料 品</b>	<b>170,451,977</b>	<b>30.4</b>	<b>0.0 ( -0.2)</b>
<b>食 堂 喫 茶</b>	<b>15,747,751</b>	<b>2.8</b>	<b>-0.7 ( -1.2)</b>
<b>サ ー ビ ス</b>	<b>5,473,678</b>	<b>1.0</b>	<b>8.7 ( 8.2)</b>
<b>そ の 他</b>	<b>10,881,852</b>	<b>1.9</b>	<b>8.6 ( 8.6)</b>
<b>商 品 券</b>	<b>21,148,038</b>	<b>3.8</b>	<b>-6.5 ( -6.6)</b>

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

## Ⅱ. 地区別の動き

1. 10都市売上動向	-0.1% (5か月連続マイナス)
2. 10都市以外の地区売上動向	-0.1% (店舗数調整後/9か月連続マイナス)

### 【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
<b>10都市</b>	<b>-0.1</b>	<b>0.0</b>	<b>5か月連続マイナス</b>
札幌	1.5	0.0	6か月ぶりプラス
仙台	-1.1	0.0	5か月連続マイナス
東京	0.6	0.2	5か月ぶりプラス
横浜	-0.2	0.0	7か月連続マイナス
名古屋	-1.5	-0.1	7か月連続マイナス
京都	-0.9	0.0	4か月連続マイナス
大阪	-1.7	-0.2	7か月連続マイナス
神戸	0.2	0.0	5か月ぶりプラス
広島	-0.3	0.0	9か月連続マイナス
福岡	4.1	0.1	5か月ぶりプラス
<b>10都市以外の地区</b>	<b>-0.1</b>	<b>0.0</b>	<b>9か月連続マイナス</b>
北海道	9.6	0.0	15か月ぶりプラス*
東北	-0.6	0.0	9か月連続マイナス*
関東	-1.7	-0.2	14か月連続マイナス
中部	-2.4	-0.1	5か月連続マイナス
近畿	1.2	0.0	9か月ぶりプラス
中国	0.7	0.0	7か月ぶりプラス*
四国	-0.6	0.0	5か月連続マイナス
九州	3.9	0.2	2か月連続プラス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

### Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目では、身のまわり品が5か月ぶり、雑貨が2か月ぶりのプラスとなった。また衣料品が9か月連続、家庭用品が7か月連続、食料品（-0.0%）が5か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が16か月連続、菓子と惣菜が2か月連続、紳士服・洋品が9か月ぶり、その他雑貨が7か月ぶり、家電が4か月ぶりのプラスとなった。

#### 【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
<b>総額</b>	<b>-0.1</b>	<b>—</b>	<b>5か月連続マイナス</b>
紳士服・洋品	2.1	0.1	9か月ぶりプラス
婦人服・洋品	-2.6	-0.6	9か月連続マイナス
子供服・洋品	-4.5	-0.1	3か月連続マイナス
その他衣料品	-4.2	-0.1	9か月連続マイナス
<b>衣料品</b>	<b>-2.0</b>	<b>-0.6</b>	<b>9か月連続マイナス</b>
<b>身のまわり品</b>	<b>1.2</b>	<b>0.2</b>	<b>5か月ぶりプラス</b>
化粧品	11.2	0.7	16か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-6.0	-0.3	5か月連続マイナス*
その他雑貨	1.4	0.0	7か月ぶりプラス*
<b>雑貨</b>	<b>2.4</b>	<b>0.4</b>	<b>2か月ぶりプラス</b>
家具	-4.6	-0.1	5か月連続マイナス
家電	0.9	0.0	4か月ぶりプラス
その他家庭用品	-4.0	-0.1	4か月連続マイナス
<b>家庭用品</b>	<b>-3.9</b>	<b>-0.2</b>	<b>7か月連続マイナス</b>
生鮮食品	-2.0	-0.1	28か月連続マイナス*
菓子	2.3	0.2	2か月連続プラス*
惣菜	0.8	0.0	2か月連続プラス*
その他食料品	-0.9	-0.1	5か月連続マイナス*
<b>食料品</b>	<b>-0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>5か月連続マイナス</b>
<b>食堂喫茶</b>	<b>-0.7</b>	<b>0.0</b>	<b>9か月連続マイナス</b>
<b>サービス</b>	<b>8.7</b>	<b>0.1</b>	<b>13か月ぶりプラス</b>
<b>その他</b>	<b>8.6</b>	<b>0.2</b>	<b>2か月ぶりプラス</b>
<b>商品券</b>	<b>-6.5</b>	<b>-0.3</b>	<b>65か月連続マイナス</b>

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・関 まで  
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>